

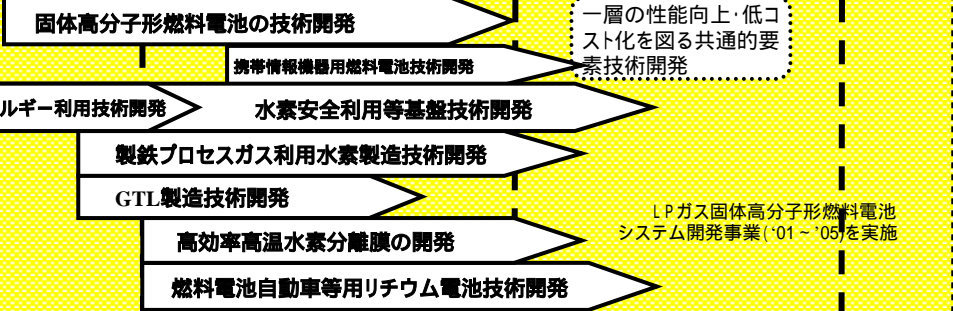
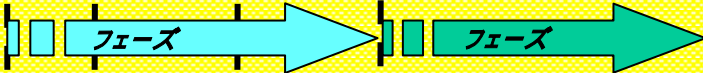
固体高分子形燃料電池 / 水素エネルギー利用プログラムの概要

固体高分子形燃料電池 / 水素エネルギー利用技術 開発戦略

- 各技術の現状整理と開発目標等の設定
- 産学官の役割分担の明確化

2002 2003 2004 2005 2010 2020

基盤整備 技術実証段階 導入段階 普及段階



民間企業においても、技術開発戦略を踏まえ、2002末～4年に実用化、2010年以降の本格的導入を目指し、主として商品化技術開発を実施する。

21世紀の水素エネルギー社会の扉を開く鍵

政策目標

地球温暖化問題(CO₂)の解決、大気環境負荷(NO_x, PM等)の低減
我が国のエネルギー供給の安定化・効率化
新規産業・雇用の創出
水素エネルギー社会の実現

導入目標

燃料電池自動車
2010年 約5万台
2020年 約500万台

定置用燃料電池
2010年 約210万kW
2020年 約1000万kW

推進体制
燃料電池実用化戦略研究会(産学官)と、燃料電池実用化推進協議会(民間企業)の連携により推進

研究開発 技術開発

導入普及に向けた施策との連携

技術開発の支援技術開発

実用化・普及促進

ソフト面(制度面)でのインフラ整備

自動車用燃料供給体制の整備

国際協調

